

保育おおさか

平成19年8月1日 第384号

大阪府社会福祉協議会・保育部会
(大阪府保育協議会)

☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-2426



700人余りが参加

平成19年度近畿ブロック保育研究集会開催

「すべての人が子どもと子育てに
関わりを持つ社会の実現を目指して」

「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現を目指して」をメインテーマに平成19年度近畿ブロック保育研究集会が7月12、13の両日、大阪市のホテルニューオオタニ大阪にて開催され、近畿一円から700人余りが参加しました。

保育行政の動向と課題

初日は、「行政報告」及び「分科会（2面に掲載）」が行われました。行政報告では、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長補佐の澄本英俊氏から「保育行政の動向

と課題」について報告。

少子化の現状に対する政府の取組みから、平成19年度の予算、認定子ども園、保育所保育指針の改定、直接契約・直接補助方式導入等の規制改革の詳しい説明がありました。

赤ちゃんは強い存在

2日目は、お茶の水女

就任ごあいさつ

大阪府健康福祉部
児童家庭室長

中野 昇氏

伝統を継承発展、

ニーズを的確に



7月1日付けで児童家庭室長を拝命した中野でございます。1年

子大学の榊原洋一教授が「子どもの発達、その不思議さ素晴らしさ」と題して記念講演。

榊原教授は、乳児には世界・人・自分・言語を



講師の榊原氏

理解するための機構が備わっていたり、運動するものの軌道を予測したりする能力を備えていることを科学的に説明され、「赤ちゃんは無力で受身の弱い存在ではなく、積極的に周りの情報を収集する能力を備えた『robust（強い）』な存在」と強調されました。また、相手の痛みがわかる、他人と自分の考えは違うといった「心の理論」は幼児期に獲得されるという指摘もありました。（M・K）

3ヶ月振りに児童家庭室に戻ってまいりました。保育部会の皆様には、日ごろから保育所の社会的責任を果たすべく、不断の努力を続けておられますことに、深く敬意を表します。

さて、ここ数年、保育所は「利用者との直接契約の導入」を提言した規制改革・民間開放推進会議の答申や保育所保育指針の省令化など、大きな変革の波に晒されています。こうした中、皆様方には、先人が築き上げて

きた大阪の保育の伝統を継承・発展させ、ニーズを的確にとらえ、子どもの最善の利益を常に意識した保育所運営にご尽力いただくことをご期待しております。

大阪府におきまして、安心して、喜びをもつて子どもを生み育てることができる社会の実現を目指し、子育て支援策や児童虐待対策の充実に取り組んでまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

編集委員の初仕事です。この文章が掲載される頃、世間では「夏休み」です。



「子育てライフを支援する」

―第2分科会―

地域との

連携にも注力

第2分科会では「子育てライフを支援する」をテーマに、大阪府と和歌山県より発題があり、大阪府からは錦保育園(守口市)の主任保育士、田中君子氏が意見を発表されました。

田中氏はまず、少子化が深刻な現代社会で、子どもは健全に育つ環境を奪われていると指摘、子育てライフをどのように支援するか、親への支援



発題者の田中氏(右端)



参加者から質問がありました

が大きな課題となっている現状について述べられました。

そういった中で、保育所にできること、保育所がすべきことについて問題提起されました。

続いて園の保育の概要が紹介されました。錦保育園で実施している子育て支援事業は①親子教室

②大阪府認定育児相談員による育児相談③出張保育(地域の子育てサークル等への出張)④園庭開放⑤保育所体験等。

そのほか職員間の意思統一を図るための努力や悩みを抱えた家族に対する支援、また地域との連携等にも力を入れていると説明がありました。職員がスキルアップを図る

のは当然であり、常に問

題意識を持ち、定期的に職員間で議論しているとの報告もありました。

助言者の中部学院大学の寺見陽子教授は「子育て支援の基本は親支援であるが、人間関係の今昔の違いや保護者自体の生活体験のなさ(例えば電

「保育協議会の組織を強化する」

―第6分科会―

若い人材に

参加の場を

第6分科会では「保育協議会の組織を強化する」

近畿ブロック 保育研究集会 分科会発表

いをしなくなったこと)など非常に難しい現状です」と述べられ、「今後と激励されました。」

(M・K)

という研究テーマで大阪府と京都府からの発題がありました。大阪府からは交野市ふじが丘保育園、東口房正園長が保育団体の全国青年部長の経験をもとに「保育組織の機能の拡充と人材育成」と題し、①組織強化の必須事項②組

織強化の問題点③これからの組織強化―について意見を述べられました。

組織強化の必須事項として、会員の積極的な参加、人材を有効に活用することや若手の人材でも参加できる場を設けることの重要性などについて指摘。組織を強化していくための問題点として、人材の停滞による高齢化・固定化や会員数の増加があげられました。東口園長は「そういった問題を解消するためには、系統立った人的ピラミッドが重要である」と強調されました。

一方、京都府からは近畿ブロック保育協議会会長の伊藤義明氏が、現在の経験をもとにマクロ的な視野から「保育組織の

機能の充実と人材育成」と題して発題されました。



助言者の菊池氏



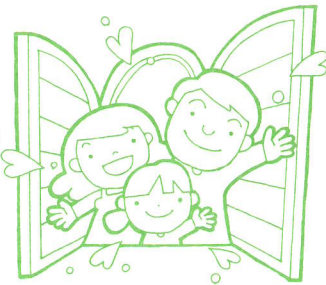
発題者の東口氏(中央)

池繁信氏(全国保育協議会副会長・大阪府社協保育部会副部長)から、お二人の発題者の意見を総括する形で「参加しやすい、見える組織作りの対話ができる組織作りの必要性」の指摘がありました。

理論と、これまでの実践に基づく自身の経験が両輪となつてはじめて、人の心を動かす力となることを学び、諸先輩方の長年のご尽力に触れることができたすばらしい分科会となりました。

(寝屋保育園 H・T)

保育の



まど

⑭

奈良県境、山の斜面に広がるぶどう畑、自然溢れる山手に我が園があります。市内に近いこともあり、この20年間で住宅開発が進み、核家族が増えてきました。

いつも明るく、いつも正しく、いつも仲良く——を保育理念とし、昭和26年創設から56年間、地元の子育て支援のお手伝いをし、現在では毎水曜日に園庭を開放しています。園児150名との交流を目的に、園行事への参加や課題をもった遊び、夏はプール開放、園児と共に祝う誕生会、創立50周年記念に建てられたラウンジルームでの親子クッキング

「地域の親子の居場所づくり —多彩なメニューを提案—」

南河学園附属国分保育園

キング、歯科医師による歯育教室などを実施。また、親子一緒に体操をし、お母さんたちも楽しそうに身体を動かされています。バラエティに富んだメニューを提案

とても好評です。最初は遊び場の提供だけと思っていたのが、今では園の行事の一部になっています。

集団生活に慣れていない子どもたちと関わることで、同年齢の園児の成長を再認識できるうえ、



親子クッキング

新任職員には、甘えるのがあたり前という幼い子どもの姿に感じる良い機会です。それぞれの「育ち」に触れ刺激し合えるすてきな園庭開放、これからは園内外の親子の居場所作りと、共に育つメニューを企画し実行していこうと思います。

(H・I)



「保育活動専門員」 認証制度スタート

全国保育協議会・全国保育士会

全国保育協議会は本年度4月より「保育活動専門員認証制度」をスタートさせました。国等では施設職員は施設の目的達成のため知識及び技術の修得、維持・向上に努めなければならないとし、継続的・生涯的な学習、研鑽が求められています。この制度は園長や保育士等、リーダーとして活躍する人材を養成し、地域の保育活動や保育組織の活性化を図り、子ども家庭福祉の増進に寄与することが目的。

認定を受けるためには、全国保育協議会が指定する大会や研修会の受講を通じて得られる「研修ポイント」を10年以内に1000ポイント獲得し、認定レポートを提出。また大会・研修会において発表を行った場合、研修ポイントが加算されます。認定を受けた者には申請を行うことで、認定証と認定カードが発行され、発行日より5年間で認定期間となります。詳細の問合せは、全国保育協議会まで。

大阪府の社会福祉施設に対するAED（自動体外式除動器）設置促進補助事業が今年度も始まり、1回目の募集を終えました。府社協を通じて昨年度から始まった補助制度で、12万円を上限に機器購入費を補助するものです。昨年度は府内の250施設が機器の設置を行いました。

AEDは、突然の心停止の際に出現する心室細動に電気ショックを与え、震えを取り除き（除細動）、心臓の動きを正常に戻すことを試みる医療機器です。2004年7月から一般の人にも使用が認められました。一般市民等がAEDを活用して心停止におちいった人を蘇生したという報道も増えています。

救命連鎖の輪に 加わりませんか？

—平成19年度AED設置 促進事業はじまる—

試合中の高校球児を救ったニュースは記憶に新しいところですが、このようにAEDは大変効果のある医療機器ですが、AEDだけでは限界があります。救命の連鎖（①早期発見②早期心肺蘇生③早期除細動④早期二次救命処置）の中で、正しくAEDを使用することにより、より多くの命を救うことができます。突然の心臓停止は決して他人事ではありません。機器設置とあわせ、ぜひ救命の連鎖の環の中に入ってください。

なお、2回目の募集は年内に行います。この補助事業は大阪府内の社会福祉施設に対するもので政令市、中核市は対象から外れます。詳しくは施設福祉部（岩田・森垣まで）へお問い合わせください。

ブロックだより

河内ブロック

地球は子孫からの借りもの
責任痛感の北海道研修

東大阪市私立保育会では6月26日、28日、北海道への理事長園長管外研修を実施しました。

遠方研修の理由は、その豊かな自然に触れ、未来を担う子ども達を育て

る者として、地球的自然環境を考えてみようとい



植樹をしました

うのが目的でした。
マスコミでも広く紹介されている話題の旭山動物園を訪ねましたが、まづびっくりしたのは観客の多さでした。観客の目線に立って、いかに感動を与えるかに徹している点に人気の秘密があるように思われました。また、丘の斜面という悪条件を逆に利用する発想は、少子化に向かう保育会に示唆を与えてくれます。
2日目は作家・倉本聰氏の講演会に参加。その後「地球の歴史を知る道」

(むぎの穂保育園 K・M)

保育園をたずねて

353

豊中市
あけぼのっこ保育園

幼保の混合クラスを实践

昭和50年、豊中市委託簡易保育園として、学校法人あけぼの幼稚園に併設された定員40名の保育園です。大阪府として幼保一元の保育は初めてのことでした。

当初は同じ敷地内にあったも、お互いに関わる機会はありませんでしたが、一緒に生活することで養われる育ちのメリッとの大きさ、群れて遊ぶこと



どろんこあそび

が楽しくなる年齢などから、混合クラスの編成が行われました。初めは5歳児のみが幼稚園の5歳

児との混合クラスに、次に4歳児も混合クラスとなりました。

園を訪れた日、園児達はプールやどろんこあそびを楽しんでいました。園庭には冒険心を育てる木製の砦やクライミングコーナーなどがありました。井戸水の手押しポンプをお互いに押しながら水を出し、順番に手を洗う姿は、忘れかけていた日本の光景を思い出させました。
(M・H)

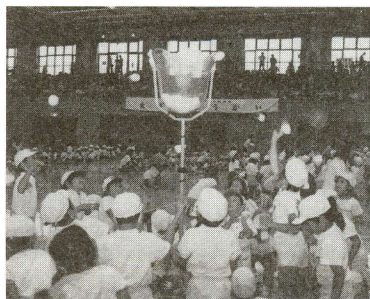
南大阪ブロック

大迫力の運動会

「じゃんけん列車」で
友達の輪

南大阪ブロック大運動会が6月22日、21ヶ園、578名の園児が参加し開催、保護者あわせて1000名以上が集いました。

578名の園児が一斉に競い合う競技は大迫力です。障害物競走に玉入れ、綱引き…と大いに盛り上がりました。玉入れでは6色のボールが鮮や



かに舞い、この日の大運動会を祝福する花火のようでした。恒例の園対抗リレーでは、各園の先生はじめ保護者が園児達に負けない応援合戦を繰り広げていました。

最後は仲良く「じゃんけん列車」。ギターの生

7月1日付で大阪府の人事異動があり、健康福祉部児童家庭室の室長であった水本行彦氏が都市整備部の次長に栄転されました。

を歴任された方です。中野室長は闊達な好人物で、私としては「おかえり、中野はん!!」という心境です。

(むぎの穂保育園 K・M)

あの人

新室長には元法人指導課長であつた中野昇氏がファイナ

主査として栄転されました。お三人方、おめでとうございます。
(N・K)

発行所
大阪府中央区中寺1丁目1-54
大阪府社会福祉協議会
保育部
大阪府保育協議会
TEL (06) 6762-9001
発行人 男 勲
編集人 永 宮